

Japanese Patent First Publication No. 7-259220

1. Title: Bracket Device

2. Abstract

PURPOSE: To install a bracket securely on a support with simple structure, and also make its mounting and dismounting operations easily.

CONSTITUTION: A bracket 1 is provided with three locking claws 2 at its rear side, bent to form along a side plate rear end 11c and an inner side 11a so that the locking claws 2 are positioned at the side plate outer side 11b of a suspended cabinet 10, and installed at the rear end of the side plate inner side 11a of the suspended cabinet 10. Also a locking mechanism 3 comprises a main body 4 formed into a U-shape as viewed from the front which is screwed just below the bracket 1 of the side plate inner side 11a of the suspended cabinet 10 and an inserting piece 6 on which a nut part 7 is formed integrally. Then a bolt 8 is inserted into a bolt inserting hole 5 drilled in the upper and lower pieces 4a and 4b of the main body 4 from the underside, screwed into the nut part 7 of the inserting piece 6, its top end is projected upward, and the bolt itself is installed on the main body 4 rotatably and so that it cannot be moved in vertical direction. The inserting piece 6 is bent and formed, as in the bracket 1, and moved in vertical direction relative to the main body 4 by the rotating operation of the bolt 8.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-259220

(43) 公開日 平成7年(1995)10月9日

(51) Int.Cl. ⁹	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
E 0 4 B 2/74	5 1 1 J			
	5 4 1 A			
E 0 4 F 19/08	1 0 2 J			

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平6-56196

(22) 出願日 平成6年(1994)3月25日

(71) 出願人 000000561

株式会社岡村製作所

神奈川県横浜市西区北幸2丁目7番18号

(72) 発明者 新堀 金重

神奈川県横浜市西区北幸2丁目7番18号

株式会社岡村製作所内

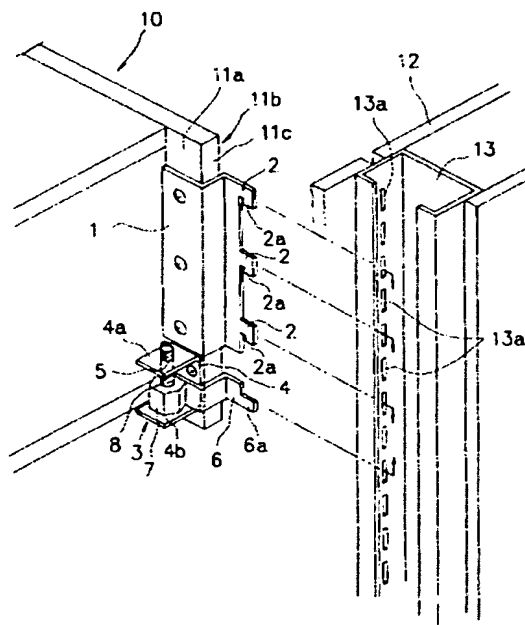
(74) 代理人 弁理士 西村 教光

(54) 【発明の名称】 ブラケット装置

(57) 【要約】

【目的】 簡素な構成で、支柱に対してブラケットを確実に取付けるとともに、その着脱作業を容易に行えるようにする。

【構成】 ブラケット1は後部に3個の係止爪2を備え、この係止爪2が吊り戸棚10の側板外面11bに位置するように側板後面11cおよび内側面11aに沿って折曲げ形成され、吊り戸棚10の側板内側面11aの後端部に取付けられている。抜止め機構3は吊り戸棚10の側板内側面11aのブラケット1直下にビス止めされる正面コ字形の本体4と、ナット部7を一体に設けた挿入片6とからなる。本体4の上下片4a, 4bに穿設されたボルト挿通孔5に、下方よりボルト8を挿通して挿入片6のナット部7に螺合させて先端を上方に突出させ、ボルト自体を本体4に対して回転自在かつ上下動不能に装着する。挿入片6はブラケット1と同様、折曲げ形成され、ボルト8の回転操作により本体4に対して上下に移動する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 上下所定間隔で穿設された係止孔を有した支柱等に被取付物を取り付けるブラケット装置において、前記係止孔に係脱自在な係止爪を後方突出してなるブラケットと、前記係止孔に挿入され、かつ係止孔内を上下に動き得る高さ寸法の挿入片を上下調節自在に備える抜止め機構とからなり、この抜止め機構をブラケットに添設したことを特徴とするブラケット装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、間仕切りの支柱等に係止して吊り戸棚等を支持するようにしたブラケット装置において、下方からの突き上げによる上向きの外力によって起こり得る、ブラケット装置の支柱からの脱落を防止するための発明に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、この種のブラケット装置は、被取付物としての吊り戸棚等に固着されたブラケット本体から後ろ向きに突設され、その先端には下方に垂下する爪部が形成された係止爪を有し、この係止爪を間仕切りの支柱等に上下適宜間隔で穿設された係止孔に挿入するとともに下方にスライドさせ、係止孔に係止することによって吊り戸棚を支柱に取り付け支持するようにしている。

【0003】ところが、上記構成のブラケット装置では、吊り戸棚の下面に上向きの外力がかかったりすると、吊り戸棚がガタついて取り付け状態が不安定になり、最悪の場合はブラケット本体が上昇動してその係止爪が支柱の係止孔から抜け出てしまい、ブラケット本体およびこれで支持した吊り戸棚が支柱から脱落してしまうという問題があった。

【0004】そこで、先行技術としての実開昭63-17645号公報には、吊り戸棚の側板内側面に埋設されて後ろ向きに突設された係止爪を有したユニット本体に、支柱の係止孔に嵌入する抜止め片を前後摺動自在にかつ後ろ向きに付勢してなるブラケットユニットが記載されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、この先行技術では、ブラケットユニット自体を吊り戸棚の側板内側面に埋設し、さらに抜止め片は後ろ向きに付勢されつつ前後摺動自在に装着されているため、ブラケットユニットが複雑な構造となり製造コストがかさむばかりではなく、係止爪の係合操作とは別に抜止め片を係止孔に嵌入するための位置合わせを必要としてしまうという問題点があった。また、吊り戸棚の着脱、すなわちブラケット着脱の際は吊り戸棚の扉を開けてから吊り戸棚の収納部奥方に突出して配設された操作つまみにて抜止め片

の摺動操作をしなければならず、高位置に配置されがちな吊り戸棚においてその着脱作業は非常に面倒であった。

【0006】そこで本発明は、上記課題を解消するために、簡素な構成で、支柱に対して確実に取り付けるとともに、容易に着脱作業をすることができるブラケット装置を提供することを目的としている。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため本発明によるブラケット装置は上下所定間隔で穿設された係止孔を有した支柱等に被取付物を取り付けるブラケット装置において、前記係止孔に係脱自在な係止爪を後方突出してなるブラケットと、前記係止孔に挿入され、かつ係止孔内を上下に動き得る高さ寸法の挿入片を上下調節自在に備える抜止め機構とからなり、この抜止め機構をブラケットに添設したことを特徴としている。

【0008】

【作用】ブラケットの係止爪と抜止め機構の挿入片とを同時に支柱の係止孔に挿入したのち、抜止め機構の挿入片を上方に移動させることにより、係止爪の係止孔への係合が深まり、かつ挿入片の上端が係止孔の上縁に当接して係止孔間を係止爪と挿入片とで挟み込むため、ブラケットの上方移動を阻止し、すなわち下方からの突き上げ等外力にて係止爪の係合が外れブラケットが支柱から脱落することを確実に防止できる。

【0009】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図面を参照して具体的に説明する。図1は本発明のブラケット装置の一実施例を示す斜視図、図2は取付状態を示す側断面図である。

【0010】この実施例によるブラケット装置は、被取付物としての吊り戸棚10の後方に張り出した左右両側板内側面11aにそれぞれ配設されており、ブラケット1と抜止め機構3とを有している。

【0011】図1に示すように、ブラケット1は後部に延出するとともに先端部分が下方に垂下した爪部2aが形成された複数（図中3個）の係止爪2を備え、この係止爪2が吊り戸棚10の側板外側面11bと略面一に位置するように吊り戸棚10の側板後端面11cおよび内側面11aに沿って折曲げ形成され、吊り戸棚10の側板内側面11aの後端部にビス止めされている。なお、ブラケット1に形成された係止爪2は複数でなく少なくとも1個であってもよい。

【0012】抜止め機構3は上下片4a、4bを有した正面コ字形の本体4と、ナット部7を一体に設けた挿入片6とからなり、本体4の上下片4a、4bにはそれぞれボルト挿通孔5、5が穿設され、下片4bの下方よりボルト8を挿入し、上下片4a、4bの間に配設された挿入片6のナット部7に螺合させるとともに先端を上片4aより突出させて支持し、ボルト8自体は本体4に対

して回転自在かつ上下動不能となるように装着してある。

【0013】挿入片6はブラケット1と同様、挿入片先端部6aが吊り戸棚10の側板外側面11bと略面に位置するように折曲げ形成されており、ボルト8の回転操作により挿入片6は本体4に対して上下片4a、4bの間で上下に移動する。この抜止め機構3は吊り戸棚10の側板内側面11aのブラケット1直下に本体4の側片4c側を介してビス止めされる。また、挿入片先端部6aは、吊り戸棚10が取り付けられる間仕切り12の支柱13に上下所定間隔で穿設された係止孔13aに挿入するべく形成され、その高さ幅は係止孔13aの上下寸法よりも幅狭に形成されている。

【0014】吊り戸棚10を間仕切り12の支柱13に取り付ける際は、図2に示すように、挿入片先端部6aとブラケット1の係止爪2との間隔を係止孔13aのピッチの整数倍にして、係止爪2と同時に挿入片先端部6aを各係止孔13a、13aに挿入し仮係止したのち、ボルト8の回転操作により挿入片6を上方移動させ挿入片先端部6aの上端が係止孔13aの上縁に当接することにより係止爪2を引き付け、係止爪2の係止孔13aに対する係合を深めるとともに挿入片先端部6aと係止爪2とによりそれぞれが挿入した係止孔13a、13a間を挟み込み、ブラケット1が上方移動することを阻止する。

【0015】したがって、このように構成されたブラケット装置では、抜止め機構3の奥行き寸法は比較的小さくすみ、吊り戸棚10の収納奥行きを損なわなくてもすむ。また吊り戸棚10の着脱時に吊り戸棚10の扉を開けることなく、下方からボルト操作により抜け止めおよび抜止め解除をするので、吊り戸棚の着脱作業が容易である。

【0016】なお、上述した実施例では、ブラケット1と抜止め機構3とをそれぞれ別体で構成しているが、ブラケット1の直下に抜止め機構3を一体に形成してもよく、この構成においても上述した実施例と同様の効果を得ることができる。

【0017】また、支柱に取り付けられる被取付物として吊り戸棚を引用して説明したが、被取付物は吊り戸棚だけに限らず、本棚、机天板、ライト装置、載置台等支柱に形成された係止孔を用いて取り付けられる物であればよい。

【0018】

【発明の効果】以上説明したように本発明によるブラケット装置は、支柱に上下所定間隔で穿設された係止孔に係脱自在な係止爪が形成されたブラケットと、係止孔に挿入される挿入片を上下調整自在に設けた抜止め機構とを備えたことにより、簡素な構成で製造コストを削減することができ、さらに取り付け時には係止孔間を係止爪と挿入片とで挟持して係止爪の係止孔への係合を深め、下方からの突き上げ等によるブラケットの上方移動を阻止してブラケットの脱落を確実に防止することができる。

【0019】また、ブラケットの着脱は、抜止め機構の挿入片を上下操作するだけで行えるので、容易に着脱作業をすることができるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

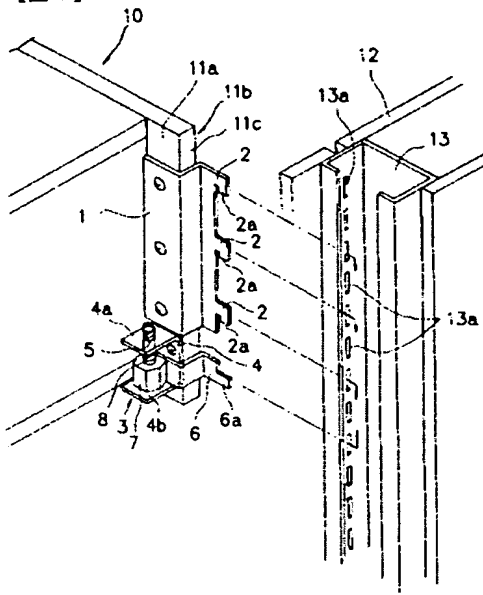
【図1】本発明のブラケット装置の一実施例を示す斜視図。

【図2】取付状態を示す側断面図。

【符号の説明】

1…ブラケット、2…係止爪、3…抜止め機構、6…挿入片、10…吊り戸棚（被取付物）、13…支柱、13a…係止孔。

【図 1】



【図 2】

